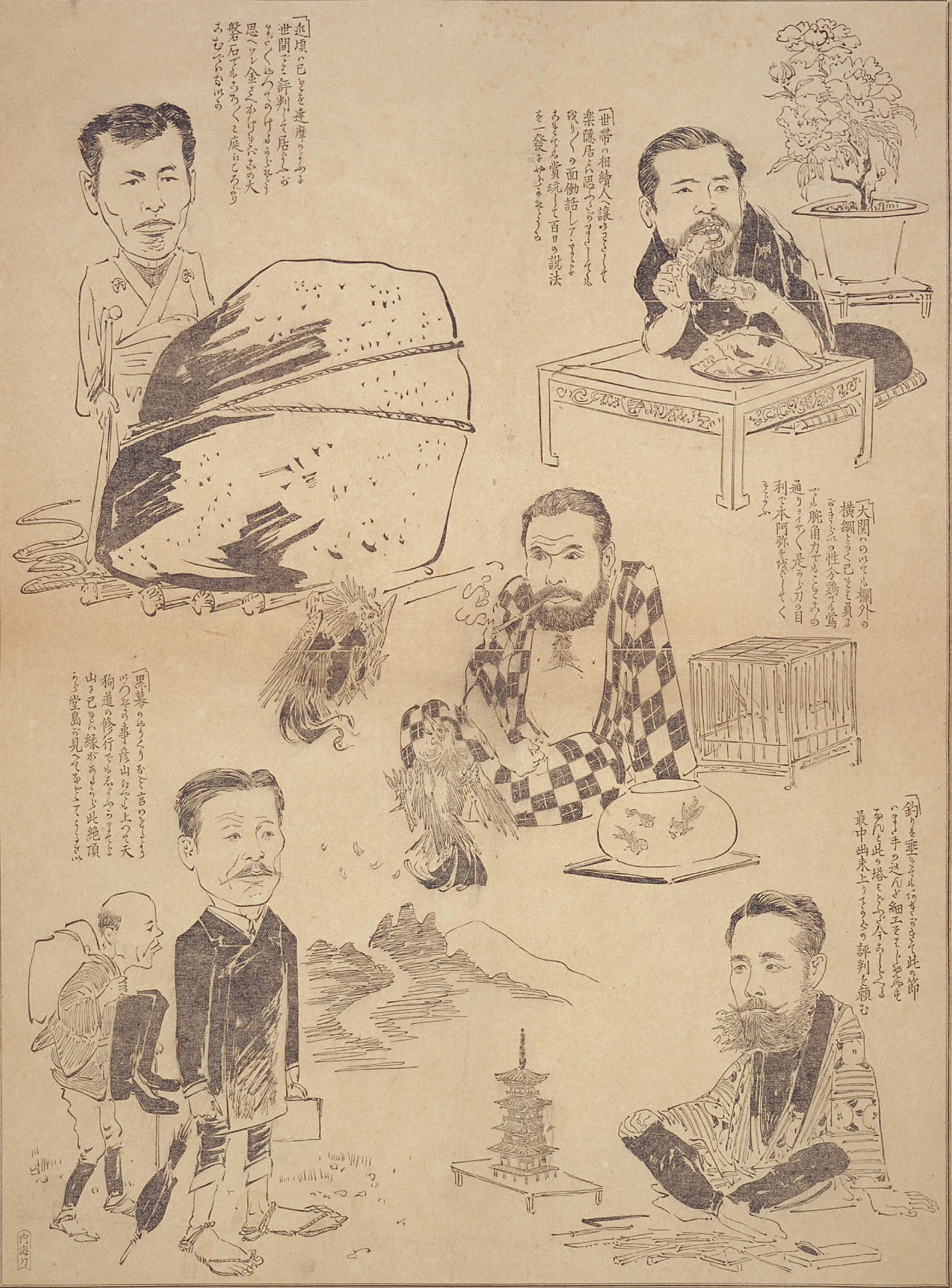

「近頃ハ己をまるで達摩のやうに世間でも評判して居ますの　なぜといふてのけるならばさう思へソレ金さへかけりやどんなの大磐石でもころ〳〵と庭ところがりおもひなかりくの

「世帯ハ相續人へ讓りさとして楽隱居とハ思つて居ますがそれハ狡り〳〵の面働話しアいますよあまそれ賞玩して百日の説法を一發すやぶつてゐるさうな

「大関ハのけても欄外の横綱とらく己までも負るがまさか〳〵の性分鷄でも鶯でも腕角力でもこきさつての通りヨイヤ〳〵是でも刀の目利で本阿弥を投ぶしてくまさふ

「黒幕のからくりかど言われるよういつも其の事彦山なやも上つて天狗道の修行でもおやりなすてよ山ま己まで縁があるのか此絶頂うら堂島が見へてなか〳〵うるさい

「釣りを垂ておハいけなひから此の節ハまる手の込んだ細工をして見るをあんと此の塔をどふです今ましくしてる最中出来上りすの〳〵の評判を頼む

發行人兼編輯人　大磯彥六　印刷人　赤澤繁吉　發行所　東京市京橋區日吉町十六番地　政論社

『政論』付録諷刺画
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library　文庫10-8056(12)